

第2回長野県公共交通活性化協議会佐久地域別部会

日時：令和4年7月28日（木）

午前11時から午前11時50分まで

（Web会議）

開 会

1 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。本年4月から佐久地域振興局企画振興課長を務めております鷹野裕司と申します。佐久の出身、在住です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日お集まりの皆様には、日頃から県政の運営に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

また、昨今、新型コロナの感染者が過去最多を更新して、爆発的な第7波となっておりますが、皆様には安全・安心な公共交通の維持のため、日々御尽力いただき感謝申し上げます。

この部会は、佐久地域における生活交通のあり方や持続可能で最適な公共交通システムの構築といった観点から、佐久地域の課題や取り組みの方向性について協議・検討を行うため、昨年12月に設置されたところです。本年1月に1回目を開催し、本日は2回目の開催となります。詳細は後ほど説明させていただきますが、この部会において協議・検討した事項は、来年3月に策定する「長野県地域公共交通計画」に反映させていくこととなります。委員の皆様におかれては御多用のところ恐縮ですが、この協議・検討に御協力をお願いいたします。

さて、佐久地域の公共交通については、市町村においては、MaaSの社会実験が小諸市と軽井沢町で、デマンド交通の実証運行が佐久市で行われるなど、新たな取組が地域住民の声も踏まえて創意工夫して進められているところです。また、事業者の皆様におかれては、少子化の進行により鉄道やバス通学者が減少しており、バスやタクシーの事業者ではドライバーの高齢化や人材不足等が従前からの課題となっております。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響による輸送人員の減少や輸送コストの上昇など、取り巻く環境は大変厳しい状況と承知しているところです。

今週月曜日、7月25日に国交省の有識者検討会において地方鉄道の再構築に関する提言がまとめられ、JR小海線が見直しを議論する路線に該当するとの報道があったところです。輸送密度1,000人未満という条件に該当するためとのことですが、沿線住民や観光客の足を守るため、小海線の活性化に向けて地域が一丸となって取り組んでいかなければならない状況と認識しております。

このような様々な課題に対して、市町村や民間事業者の皆様にともすれば任せきりでありましたが、従来の枠組みから脱却して、今後は県が主体となって広域的な公共交通ネットワークの最適化に向けた取組を進めていかなければならないと考えております。

委員の皆様のご意見を踏まえながら、暮らしやすい地域づくりに加え、脱炭素社会の実現や魅力ある観光地域づくりなどの視点も含めて、佐久地域の公共交通の維持・発展に向け、取り組んでまいりたいので、どうか忌憚のない御意見をお願いし、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 会議事項

- (1) 地域公共交通計画について（資料1）
- (2) 幹線公共交通ネットワークの構築について（資料1）
- (3) MaaSの基盤づくりに向けた取組について（資料1）
- (4) 佐久圏域における広域的な公共交通課題について（資料2）

（資料説明後、企画振興部交通政策課より補足説明）

「公共交通はどうあるべきか」「サービス水準が最適か」というような点に対して、アンケートを実施させていただくので、委員の皆様からご意見をいただきたい。

また、第1回の地域別部会の際にも、広域的な公共交通の現状・課題についてアンケートを実施し、委員の皆様から様々なご意見をいただいた。

具体的には、「市町村をまたぐ公共交通については県が主体的に関与すべきではないか」「市町村単位で予算が措置されているため、広域的な検討が難しい」「単独市町村が運行するコミュニティバスについては隣接する市町村へ移動ができない」等、ご意見をいただいた。

県が軸として支える広域的な移動に関して、これまで以上に県が主体的に関わり、官民の適切な役割分担を踏まえた新たな支援策を講じられるよう検討してまいりたい。

3 その他

出席者より特に意見なし。

閉会